

# ICT活用教育

小学校・中学校

伊那市 情報教育カリキュラム

実践事例 NO.73

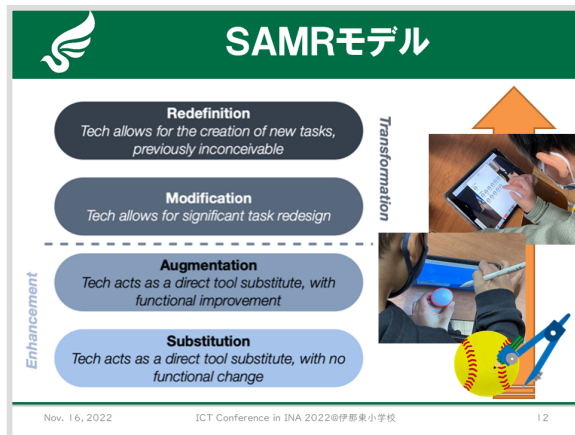
発行：伊那市教育委員会学校教育課

編集：ICT活用教育推進センター

## 伊那市 情報教育カリキュラムは低学年から高学年、 中学校へのつながりを大切にしています

「伊那市 情報教育カリキュラム」は、伊那市の子どもたちがiPadを使って小学校低学年から中学生になるまで無理なく「情報活用能力」を身につけられるように考えられています。細かな内容については「伊那市教育チャンネル」の「ICTカリキュラム」として解説していますのでご覧ください。また、このカリキュラムにもとづいた「『ICT活用教育』実践事例集（2021～2023年度版）」が各校に「保存版」として配布されていますので一度目を通してください。また、ICTを活用した実践のヒントが「ICT活用教材DB（データベース）」として、伊那市内の先生方に共有されていますのでご利用ください。

教室でのICT活用の段階を示したモデルの一つに「SAMRモデル」があります。このモデルは教室におけるテクノロジーの役割を定義する上で役立ちます。



教室にICTをうまく取り入れるために作られたモデルの一つに「SAMRモデル」がある。このモデルは教室におけるテクノロジーの役割を定義する上で役立つ。

「SAMR」は、  
**Substitution**：代替・置換  
**Augmentation**：増強・拡張  
**Modification**：変容・改良  
**Redefinition**：再定義  
の頭文字を表しています。自分の授業の位置を確認するための大まかな目安とすることができます。

教育にICTを活用することによって授業自体が大きく変わっていきます。このことを表すモデルが「SAMRモデル」です。今回のマークアップ機能はコンパスの「置き換え」です。その先に教育的学びとしてどのようなものがあるのか。今回のポイントは協働的に学べたかです。子どもたちは自分たちでエアードロップを使って写真を共有しディスカッションしていくことが自然と起こっていました。これが発展するとクラス全体で協働での学びになり深まっていくと思います。これがICTを使った一つの授業のあり方になっていきます。それを考えるとICT活用の可能性はますます広がっていきます。今日の授業はそのことを示しました。素晴らしい授業であったと思います。

（ICT Conference2022 in INAの小学校授業研究会で、指導者である信州大学 教育学部の森下孟先生が指摘した「SAMRモデル」にみられる授業の可能性から）

※確認の意味で昨年度のものを再掲します。

## クリエイティブな学習活動は 先生たちも、子どもたちも大好きです



### サマーキャンプ 見つけたことを映像にして発表しよう

サマーキャンプ2023の午後の部では、iPadの動画作成アプリなどを使って、午前中に撮った写真や動画をもとにグループで映像作品を作りました。

「溝口露頭の前で解説をする」様子をグリーンスクリーンをバックにして撮影しました。この後iMovieで動画を合成しました。（ICT活用教育NO59参照）

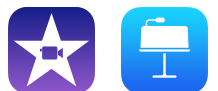


### 中学校3年 美術 自分にあった作風は？

有名な作品の構図や描き方を真似しながら自画像を制作します。制作の場面では構図や色彩なども実際にあった作品を参考にできるので難易度が軽減されました。

お互いの引いた補助線を見合い、アドバイスをしあいます。友だちのアドバイスによって頭の大きさを修正したり、あごの部分をなめらかに引き直したりしていました。

（ICT活用教育NO62参照）



### 夏季研修会 iMovieとKeynote 講座

伊那市のICT活用研修会は毎年夏休みの初めに推進センターの研修室（東部中学校南校舎3F）で開催されています。多くの先生方が参加し、「このような機会を作っていただき大変ありがたい。来年もぜひ参加したい。」「作品を作るのがすごく楽しかったです。わかりやすく、楽しい雰囲気がとても良いです。」といった感想がたくさん聞かれました。

（ICT活用教育NO57参照）

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び  
協働的な学び  
自立的な学び

子どもと共に  
未来を創る教員

伊那市では「学校教育情報化ビジョン2024」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。